

部局名

農学部 獣医学科

担当:北原 豪



テーマ

産業動物の“いのち”の誕生のお手伝い



産業動物（牛、豚など）を殖やす（繁殖）ためには、精子と卵子から、受精卵（胚）となって子宮で発育し、数十kgとなった胎子が無事に生まれてくる過程を円滑に行う必要があります。

動物の卵巣や子宮といった生殖器官のコンディションを整えたり（ヒトの医療でいう婦人科）、また妊娠から分娩までをケアしたり（ヒトの医療でいう産科）、またこの過程に関わる繁殖のメカニズムの解明や医療技術の開発が行われています。



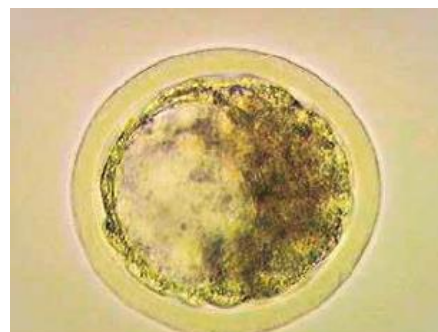
詳細内容はQRコードから確認できます

のうがく図鑑: <https://www.miyazaki-u.ac.jp/agr/books/book-vet/post-35.html>



分娩直後の黒毛和種牛の親子

分娩直後の子牛はまだ羊水で濡れており、母牛が舐めて乾かす（リッキング）と同時に、呼吸や起立を促します。



ウシの受精卵

人工授精後7日に子宮を洗浄して回収した受精卵。
ステージは胚盤胞。



ウシの胚と妊娠子宮

人工授精後22日、29日、36日、43日に超音波検査でみた妊娠子宮。矢頭は胚、矢印は胎水。